



# PASCO Aims at the World's Peak

We are the Leading Geospatial Group

第 63 期 中間

株主通信

2010.4.1~9.30

# 日本発、世界へ 世界の地理空間情報事業をリードします

株主の皆さまにはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

パスコグループの第63期第2四半期(2010年4月1日から2010年9月30日まで)は、前期から本格的に開始したグループ全体の経営合理化と生産改革の取り組みにより、パスコ創業以来、初めて中間決算で黒字を計上しました。今後も利益体質への変革に取り組むとともに、世界をリードする地理空間情報事業者として、社業の拡大に向け社員一同尽力してまいり所存です。ここに当期の事業概要と、今後の展望をご報告申し上げます。

代表取締役社長 杉本 陽一



## 決算の状況

パスコグループでは、利益率向上のため、グループ全体の内製化を含めた生産工程の見直しや工程管理の効率化を進めてまいりました。その結果、当第2四半期の売上高は前年同期比8.1%増収の18,342百万円となり、さらに売上原価の低減を実現しました。これにより、営業利益は943百万円(対前年同期比:1,353百万円増)、経常利益は645百万円(同:1,314百万円増)、四半期純利益も311百万円(同:778百万円増)といずれも大幅に改善し、利益計上いたしました。

受注活動につきましては、国内(公共)部門、国内(民間)部門、海外部門ともそれぞれ対前年同期比4.6%増、15.3%増、20.7%増と順調に伸長しています。

パスコグループは、引き続き生産改革へ取り組むとともに、新しい技術とビジネスモデルを構築し、国内外市場での競争力をさらに高めてまいります。

## 国々の発展を支える

昨年のブラジル大手測量会社であるBASE(バーゼ)社に続き、今年の中欧・南欧で活躍するベルギーのAerodata(エアロデータ)社がパスコグループ入りしました。パスコグループでは、海外拠点間の連携強化を図り、各グループ企業が保有する高度な技術や機材を共有して、国際市場での競争力を高めています。

パスコグループは、国の発展に欠かせない国土基本図の整備のほか、航空機や人工衛星を用いた森林量や二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)吸収量の計測など、世界の国々の発展や地球温暖化対策を、高度な技術でサポートしてまいります。

## 日本の宇宙技術を 国際市場へ

パスコグループは人工衛星の撮影画像を、地図整備や環境・災害モニタリングに活用しています。また、第二衛星受信局(北海道千歳市・今年末竣工予定)の建設や移動式地上受信システムの開発による地上受信局網の拡充など、パスコの衛星事業は順調に伸展しています。

今年、経済産業省を中心として、日本の宇宙産業に従事する官民の機関が一体となった「ミッション団」の海外派遣が始まりました。この海外派遣は、日本の宇宙産業の国際展開を目的として実施されています。今年2月にはアフリカ、8月には南米への派遣が行われ、パスコも地球観測衛星の運用・利活用を担う企業としてミッション団に参加しました。[P3・4参照](#)

パスコグループは、衛星画像の提供・活用を通じて日本の宇宙産業の発展に寄与するとともに、環境・防災を中心とした分野において、衛星活用の世界的ニーズに応えてまいります。

## 株主の皆さまへ

私たちは、「地理空間情報事業を通じて安心して豊かな社会システムの構築に貢献する」という経営理念をグループ全社員で共有し、世界一の地理空間情報事業者として、新技術を使った新しいビジネスモデルを常に創出し、社業の発展を図ってまいります。

引き続き、株主の皆さまの一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

## 衛星画像の受信と活用を担う 世界各地の防災活動・災害対策に パスコの最先端技術を

日本政府は現在、「先進的宇宙システム」の開発に取り組み、小型で高性能、そして低コストの日本製地球観測衛星システムの開発を進めています。これは、2012年に予定される日本の小型衛星の打ち上げから、受信・運用までを総合的なシステムとして実現を目指す人工衛星システムです。

今年、日本の人工衛星システムを国際市場に売り込むため、経済産業省を中心として、日本の宇宙産業に

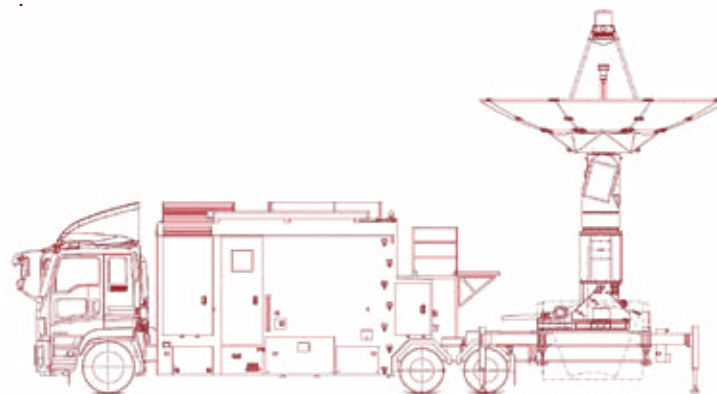
従事する官民の機関が一体となった「ミッション団」の海外派遣が行われ、パスコも地球観測衛星の運用、利活用を担う企業として参加しました。

パスコは、より小さなシステムで衛星画像の受信、加工・処理を効率的に行う「可搬統合型小型地上システム」の開発を担当し、日本の宇宙産業の国際展開に向けて一翼を担っています。

### 可搬統合型小型地上システム

パスコが2009年から研究・開発に着手した可搬統合型小型地上システムは、地球観測衛星の管制機能、衛星信号の受信機能、そして衛星から取得した画像の処理機能を備えています。また、小型化した地上システムは車両等で移動することにより、衛星の追跡管制を実現、さらに衛星に限らず、航空機などから得た画像データを統合する機能、データアーカイブ機能、データ配信機能などを備えています。

パスコが2012年の完成を目指す本システムは、万が一、災害等で通信インフラが寸断された場合でも、車両で被災地に出向き、現地で衛星画像データの受信・加工・処理・提供を可能にします。



アンテナ稼働時



走行時

可搬統合型小型地上システム



パスコが目指す社会システム

### パスコが目指す、世界の自然災害モニタリング

パスコは、災害発生時において人工衛星や航空機の撮影画像に加え、各種センサーから得られるデータを処理し、詳細な被災状況の早期把握と関係各所への迅速な情報提供を可能にする自然災害モニタリングシステムの構築を目指しています。

2004年、インドネシア・スマトラ島沖大地震の際に発生した津波は、インド洋沿岸の広範囲にわたってその影響をおよぼしました。その当時、パスコでも津波によ

る被害想定を早急に世界へ発信すべく尽力しましたが、衛星などの技術に欠け十分な成果が出せませんでした。これを機にパスコは、人工衛星による自然災害モニタリングの重要性を提唱、パスコの社会的使命として構想の実現に取り組んできました。

この構想は、今般、日本政府がプロジェクトを組んで推進、具現化に向け大きく進展しています。

### 先進的宇宙システムの開発

経済産業省を中心に2008年にスタートしたASNARO (Advanced Satellite with New system ARchitecture for Observation) プロジェクトは、低コスト、短期の開発期間で高性能な先進的宇宙システムの実現を目的とした取り組みです。

パスコは、本プロジェクトにおいて、移動式の地上システムである「可搬統合型小型地上システム」の開発を担当しています。

日本政府は、2012年に国産小型衛星第1号機の打ち上げと、その後、新興国などへの輸出を計画しています。

## 新しい情報通信技術による 観光振興とルートナビゲーションの利便性向上を推進

総務省が推進する「ユビキタスタウン構想推進事業」の一環として、日本各地でさまざまな自治体や団体が、地域の特色を生かしながら新しい情報提供サービスを開始しています。右ページでは、今年度、パスコ

のユビキタス技術を活用してスタートした情報提供サービスをご紹介します。パスコは、ユビキタス技術をはじめとする地理空間情報を活用した新しい技術で、暮らしやすさの向上に貢献しています。

### 携帯電話で読み込んで

街中に取り付けた専用コードを携帯電話で読み込む。現在地の確認、ルート案内のほか、観光情報を閲覧。



### 専用端末を持って

特定のポイントに近づくと、端末が電波を受信。周辺の観光案内や施設情報を音声や映像を交えて紹介。

パスコは、さまざまなサービスに役立つ汎用的な情報基盤の構築を、新たな情報通信技術を用いて取り組んでいます。これからも地域観光の振興や皆さまの生活の利便性向上を目指して、研究開発に努めていきます。

### 鳥根県津和野町 ユビキタス観光ガイド「ユビナビ」 専用端末 携帯電話

山陰の小京都・津和野町で“津和野まちごとユビキタス美術館”の創造をコンセプトに、観光ガイド「ユビナビ」がスタート

写真や動画、音声ガイドを交えた観光情報のほか、津和野町の風土、歴史などの情報を得ることができます。四季折々の情報が常に提供されているため、夏に訪れても秋の催し物を疑似体験できます。



### 沖縄県読谷村 「読谷(よみたん)ユビキタスガイド」 専用端末 携帯電話

美しい自然と豊かな伝統文化に育まれた読谷村で「読谷ユビキタスガイド」がスタート

村内の主要観光コースの施設や店舗の情報を、日本語、英語、フランス語、沖縄語の4言語で提供しています。日々更新される店舗等の施設情報では、イベントや特売など“旬な”情報を得ることができます。



### 大阪梅田地下街 「うめちかなび」 PC 携帯電話

日本最大級の広さを持つ大阪梅田地区の地下街で「うめちかなび」がスタート

地下街の店舗やトイレなどの施設情報をはじめ、最短ルート、乗換ルート、階段や段差を回避したバリアフリールートの検索が可能です。さらに、地下街で迷った人に携帯電話を使って現在地を提供し、目的地までのルートを案内します。



### 埼玉県春日部市 「かすかべオラナビ」 PC 携帯電話

アニメで人気の「クレヨンしんちゃん」の舞台である春日部市で地域ポータルサイト「かすかべオラナビ」がスタート

サイトはタウン・観光・子育て・行政・防災の5つのカテゴリで構成され、それぞれ施設やルート案内などの情報を提供しています。外出先では携帯電話を使って、目的地までの徒歩ルートや公共交通機関を利用した最短ルートを検索できます。



準天頂衛星を活用した次世代の測量へ

## 道路空間情報の基盤整備を本格化

これまで道路周辺情報の精密な測量には、対象となる地域に作業員を派遣し、走行中の車両に配慮しながら現地測量を行わなければならない、交通事故などの危

険性を伴うほか、天候にも大きく左右されていました。パスコは、こうした道路空間情報の測量に最新の技術を導入し、数々の実績を上げています。

### 新しい高精度計測技術で道路関連事業を拡大

パスコは、今年、人工衛星からの測位信号を受信するGPS受信機を搭載した車両で、走行しながら取得する位置情報を起点に、周辺情報を精密に自動計測する「モービル マッピング システム (以下、MMS)」を導入しました。これにより、上空からでは陰になる高架や街路樹の下、トンネル内などの道路周辺情報を三次元で精密に測量、航空機撮影による三次元情報とのハイブリッド測量により、道路空間情報の取得精度

を向上、大幅なコスト削減と現場作業時間の短縮を実現しました。

今年度、地方公共団体から発注される道路関連業務に適用し、大きな効果と実績を上げています。今後は、MMS (三菱電機株式会社製) を全国10拠点に配備し、道路関連事業での市場シェアの拡大に努めてまいります。



新たな利用者層を開拓

## WEB上で行う商圈分析サービス「商圈大勝」

今や店舗に集客できる範囲 (商圈) 内にターゲットとなる顧客層が、どのように分布しているかなどを調べる商圈分析は、電子化した地図と統計データを組み合わせたシステムにより、多角的に分析ができるようになりました。しかし、こうしたシステムは専門的

すぎて、小規模店舗を経営する皆さまのニーズに応えられるものではありませんでした。

そこでパスコは、利用料金を抑えて、手軽に商圈分析を実現するサービス「商圈大勝」の提供を開始し、新たな利用者層の拡大に努めています。

### より簡単に、よりわかりやすく

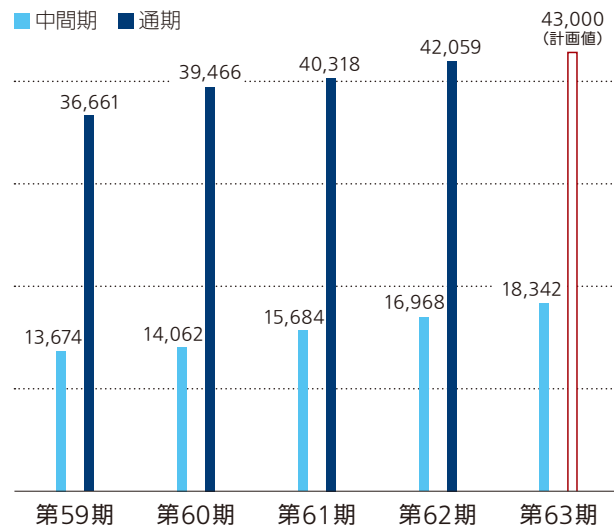
今年の夏から本格的な宣伝活動を開始した「商圈大勝」は、マーケティングになじみの薄い皆さまにも、よりわかりやすく、より簡単に利用していただくため、随時、サービスサイトの見直しや更新を実施しています。

また定期的に「商圈大勝」の無料体験会を開催し、新たな利用者の拡大に努めるとともに、すでにお使いいただいている皆さまにはメールマガジンやサービスサイト上で「商圈大勝」の活用方法や導入事例をご紹介するなど、サポートを充実させています。



商圈たいしょう  
しょうけん大勝

連結売上高 (単位: 百万円)



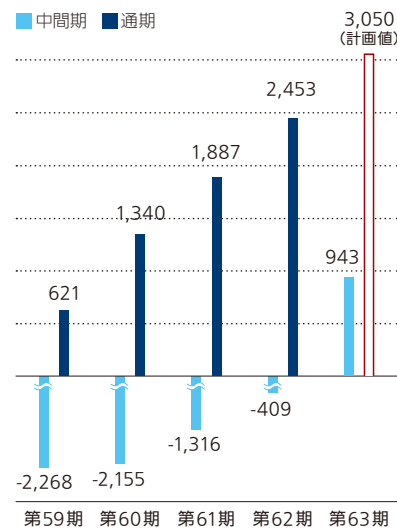
事業形態の特徴

当社グループ売上げの70%以上を占める公共分野は、国や地方自治体などの単年度予算の影響を受けて、納期が年度末に集中するため、売上げは下半期に偏り、期末に向けて収益が増加する傾向にあります。

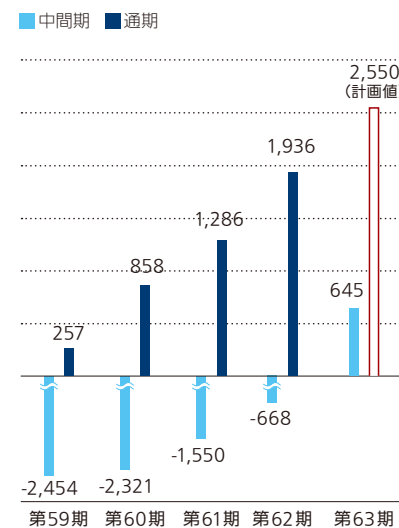
通期の業績予想

期首より、当社グループの生産活動は順調に推移しており、当期末の業績は、売上高43,000百万円、営業利益3,050百万円、経常利益2,550百万円、当期純利益2,100百万円を予想しています。

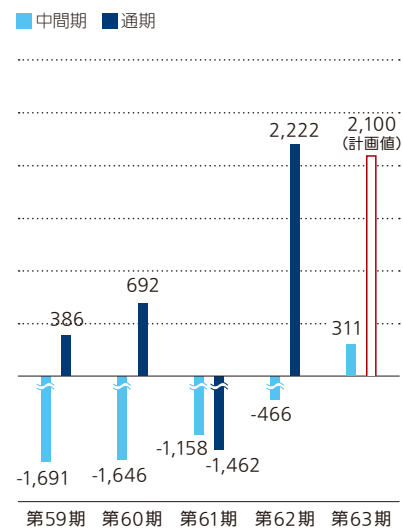
連結営業利益 (単位: 百万円)



連結経常利益 (単位: 百万円)



連結当期純利益 (単位: 百万円)



連結貸借対照表 (単位: 百万円)

科目	当四半期 2010年9月30日現在	前四半期 2009年9月30日現在	前期 2009年3月31日現在
<b>資産の部</b>			
流動資産	24,734	23,822	38,565
固定資産	17,306	16,726	16,345
繰延資産	—	0	—
資産合計	42,040	40,548	54,910
<b>負債の部</b>			
流動負債	11,856	11,144	23,498
固定負債	19,801	21,208	20,555
負債合計	31,657	32,353	44,054
<b>純資産の部</b>			
株主資本	10,350	7,733	10,420
評価・換算差額等	△427	20	6
少数株主持分	459	441	428
純資産合計	10,382	8,195	10,855
負債純資産合計	42,040	40,548	54,910

連結損益計算書 (単位: 百万円)

科目	当四半期 2010年4月1日から 2010年9月30日まで	前四半期 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前期 2009年4月1日から 2009年3月31日まで
売上高	18,342	16,968	42,059
売上原価	13,619	13,841	32,417
売上総利益	4,722	3,126	9,641
販売費及び一般管理費	3,779	3,536	7,187
営業利益	943	△409	2,453
営業外収益	162	131	270
営業外費用	460	390	787
経常利益	645	△668	1,936
特別利益	65	59	822
特別損失	75	72	697
税金等調整前四半期(当期)純利益	635	△682	2,062
法人税、住民税及び事業税	90	87	239
法人税等調整額	291	△316	△387
少数株主利益(損失△)	△58	13	△11
四半期(当期)純利益	311	△466	2,222

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位: 百万円)

科目	当四半期 2010年4月1日から 2010年9月30日まで	前四半期 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前期 2009年4月1日から 2010年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,476	10,662	5,877
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,731	△714	△1,655
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,357	△14,526	△3,974
現金及び現金同等物に係る換算差額	△49	39	28
現金及び現金同等物の増減額(△減少)	△3,662	△4,538	276
現金及び現金同等物の期首残高	10,402	10,126	10,126
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	—	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,739	5,587	10,402

# 会社の状況

(2010年9月30日現在)

## 会社概要

会社名	株式会社パスコ
証券コード	9232
住所	東京都目黒区東山1-1-2
設立	1949年7月15日
資本金	8,758,481,700円
事業内容	人工衛星、航空機、車両等を使って国内外の地理空間情報を収集し、お客さまの使用目的に合わせて加工・処理し、さらに必要な情報を付加した地理空間情報サービスを提供

## 役員

代表取締役社長	杉本 陽一
取締役	藤田 稔
取締役	岩松 俊男
取締役	植本 輝紀
取締役	岩館 隆
取締役	納 宏
取締役	安住 修二
取締役	笹川 正
取締役	西本 利幸
取締役	島村 秀樹
取締役	伊東 秀夫
常勤監査役	荒田 直行
監査役*	吉村 皎三
監査役*	加藤 幸司

※は社外監査役

## 株式データ

発行可能株式総数	200,030,995株
発行済株式の総数	73,851,334株
株主数	10,562名

大株主	持株数(千株)	出資比率(%)
セコム株式会社	51,584	69.84
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	1,711	2.31
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	820	1.11
株式会社東京放送ホールディングス	750	1.01
三菱電機株式会社	557	0.75
パスコ社員持株会	463	0.62
三菱UFJ信託銀行株式会社	451	0.61

注) 持株数は千株未満切り捨て、出資比率は小数点第3位以下切り捨て。  
当社は自己株式1,410千株を保有しています。

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
剰余金配当の基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11 0120-232-711 (フリーダイヤル)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告方法	電子公告により行います。 (ホームページアドレス <a href="http://www.pasco.co.jp">http://www.pasco.co.jp</a> ) ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告によることができないときは、東京都において発行する日本経済新聞に掲載します。

表紙画像について: パスコグループのFINNMAP(フィンマップ)社が撮影した世界最高峰エベレスト(チベット語:チョモランマ)の写真です。  
エベレスト上空から航空写真測量用の機材で撮影した画像は珍しく、パスコグループならではの写真です。

## 株式会社パスコ

本社 〒153-0043 東京都目黒区東山1-1-2  
電話 03-5722-7600 ホームページ <http://www.pasco.co.jp>

